

モルタル欠け部分の補修工法

施工要領書

- ★ [初期補修用プレミックスポリマーセメントペースト]
 - ・マノール **SBR** ボンドペースト(粉体 混和液のセット品)

『都市基盤整備公団 建設指定資材』

- ★ [速硬軽量モルタル]
 - ・マノール **RL** モルタル(粉体 混和液のセット品)
 - ・マノールドクターQ (ライト)
 - ・マノールアクリット

株式会社 マノール

モルタルの欠け部分補修工法の施工要領

1. 適用範囲

この施工要領書は、モルタルの欠け部分の補修に適用する。

2. 使用材料

製品名		荷姿	主な用途
防錆 処理	マノール SBR ボンド ペースト	20 kg (セット品) 粉体 : 15 kg 混和液 : 5 kg	欠損部及びコンクリート打継部等の 下地処理用ポリマーセメントペースト。 モルタルの中性化防止及び鉄筋の錆防 止にも使用。
速硬軽量 モルタル (RLモルタル)	マノール ドクターQ (ライト)	15 kg紙袋 (粉体)	速硬性の欠損部充填用モルタル 1回の塗厚は25mm以内
	マノール アクリット	18 kg缶 (液体)	セメント混和用ポリマーディスパージョン と呼ばれ3倍液に希釈しドクターQライト の混和液 又は吸水調整材として使用する。

* マノール RL モルタルは下記のようにセット品としております。

粉体:ドクターQライト 2kg 袋×5袋 混和液: マノールアクリットの3倍液を3kgポリ容器

3. 標準調合及び使用量

1) モルタル等の使用量は、表1～3による。

表-1. マノール SBR ボンドペースト

粉体 (kg)	混和液 (kg)	練上り量 (ℓ)	標準使用量 (kg/m ²)
1.5	0.5	約 1.0	1.5～2.0

表-2. マノールドクターQ (ライト)

粉体 (kg)	アクリット (kg)	水 (kg)	練上り量 (ℓ)	標準使用量 (kg/m ²)
15	1.6	2.0	約 12	1回塗25mm以内

表-3. マノールアクリット (ドクターQライトの混和液 吸水調整材)

マノールアクリット (kg)	水 (kg)	標準使用量 (kg/m ²)
1.0	2.0	0.1～0.2

*使用量に応じて上記の製品の代わりにマノール RL モルタルのセット品を使用することも可能です。その場合は混和液は希釈しないで御使用ください。

4. 工法

1) 下地処理

- イ. モルタル・コンクリート下地面の汚れ及び付着物は、ブラシ・研磨紙・サンダー等で水洗い等により除去する。また、油類は溶剤で拭き取る。
- ロ. 躯体の欠損部分の浮きやコンクリートは除去し、また、鉄筋が露出して発錆している場合は、スクレーパー・ワイヤーブラシ・研磨紙等により錆を除去する。(第2種ケレン)
- ハ. 仕上げ塗厚さが25mmをこえる場合は、補修塗り部分等に対して、ステンレス製アンカーピンを縦横200mm程度の間隔に打ち込み、ステンレスラスを張り、補修したモルタルの落下防止の処置を行う。

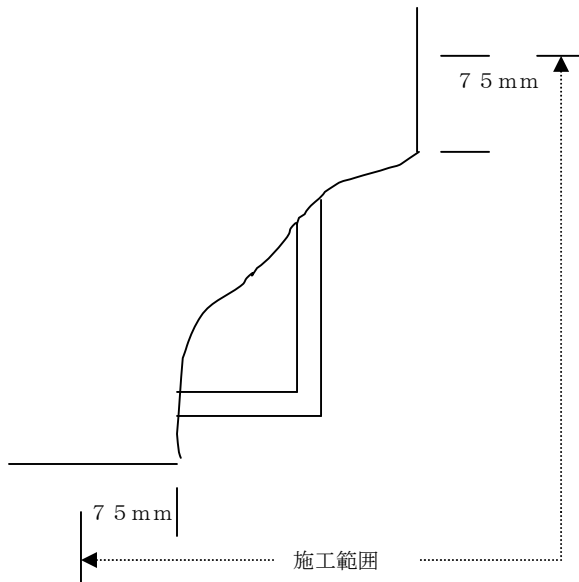
2) 下塗り

- イ. モルタルコンクリート補修下地面には、下地の乾燥状態を見計らい水湿し、または、吸水調整材を所定量、ハケ・スプレー等で塗布する。
- ロ. 吸水調整材を塗布し乾燥後、マノール SBR ボンドペーストを所定量(1.5~2.0 kg/m²)ハケ等で塗付ける。
- ハ. 鉄筋の発錆部分には第2種ケレン後にマノール SBR ボンドペーストを所定量(1.5~2.0 kg/m²)をハケ等で塗付ける。

3) モルタル塗り

- イ. マノール SBR ボンドペーストが乾燥しないうちに、追っかけで速硬軽量モルタルをコテ等により塗付ける。
- ロ. 速硬軽量モルタルの1回の塗厚は、25mm以下とし、それ以上厚塗りする場合は、下塗面を金ぐしでくし目をつけ、加減を見ながら2~3回に分けて施工する。
- ニ. 出隅・入すみ・ちり回り等は、定規塗りをを行い、定規通し良く塗付ける。
- ホ. 欠損の大きさによっては、補修部分に当板等を施し、モルタルを充填する。
- ヘ. 上塗りモルタルが未硬化の状態では孔質ローラー、硬質ハケ等を用いて、周囲の旧塗膜面に模様を合わせて仕上げる。
- ト. 塗付け後の次工程までの養生時間は、速硬軽量モルタルで18時間以上とする。

5. 施工概念図

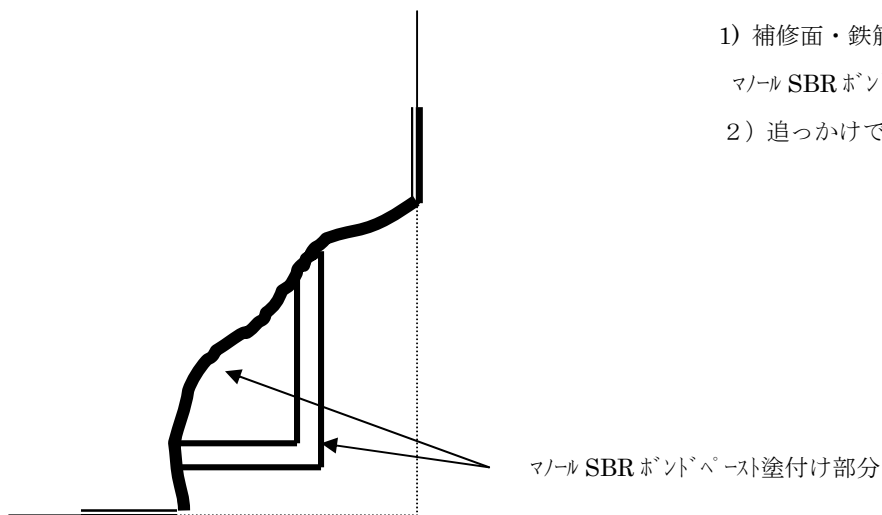


① 下地処理

- 1) 浮き・劣化部をはつきり除去する。
- 2) 補修部の境界面より75 mm以上の範囲をケレン・清掃する。
- 3) 鉄筋の発錆部はケレン等で除去する。
- 4) 塗厚が大きい箇所は、モルタルの落下防止対策を行う。
- 5) 補修面は、水湿し又は吸水調整材を塗布する。

② 下塗り

- 1) 補修面・鉄筋及び周辺部にマニール SBR ボンドペーストを塗り付ける。
- 2) 追っかけで速硬軽量モルタルを塗付ける。



③ モルタル塗り

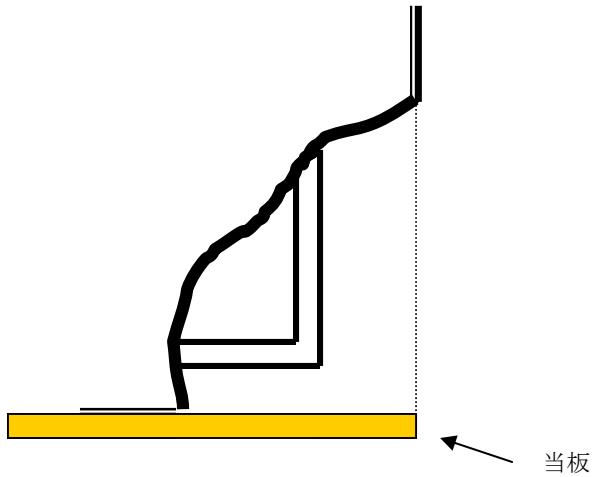
1) 速硬軽量モルタルを下地に手で押し付けるようにして詰める。

2) 1回の塗厚は、使用材料に応じて施工する。

速硬軽量モルタル : 25mmまで

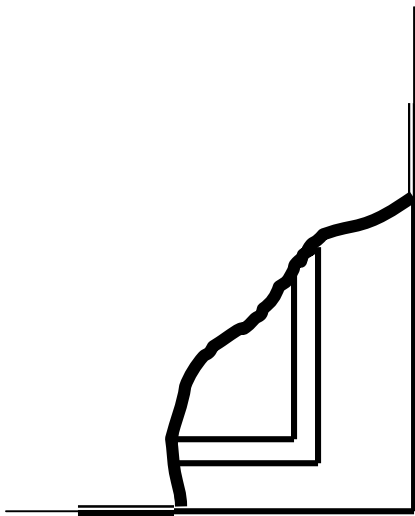
3) 表面はコテで仕上げる。

※表面の仕上げを周辺部と同様に仕上げる場合もある。



④ マノール SBR ポイントペーストの仕上げ

1) 表面の仕上げは既存部分へ幅75mm以上塗付け、ハケ及び多孔質ローラー等で周辺の模様に合わせて仕上げる。



6. 施工上の注意

- 1) モルタル等の調合は、標準調合を基準にして行う。
- 2) 混練りしたモルタルは、可使時間(30分から60分)以内に使い切る。
- 3) 下地の付着物、ゴミ、汚れ等は、完全に除去清掃する。
- 4) 気温が5℃以下の場合、又は施工中に5℃以下になることが予想される場合、及び降雨、降雪等の予想される場合は、施工を見合わせる。また、塗り面が凍害を受けた場合は、その部分を取り除いてから塗り直す。
- 5) 施工した補修箇所が、直射日光、強風等によって急激な乾燥の恐れがある場合は、覆いがけ等の適切な養生を行う。
- 6) モルタルの施工は、下地にコテ圧力を加えて塗付ける。
- 7) モルタルの硬化初期は、衝撃・振動等を与えない。
- 8) 下地がアルミニウム・ステンレス・FRP及び塩化ビニール樹脂等とは、十分な接着力が得られないので注意する。

7. 使用材料の保管等

- 1) 使用材料の使用可能期間は、製造年月日から起算して6ヵ月です。この期間を経過した材料は使用してはならない。
- 2) セメント等の粉体は、雨・風・露・直射日光及び寒気等を避け、湿気の少ない場所に床面を上げた台を設け、且つ防湿シート等で覆って保管する。
- 2) 混和液等の液体は、直射日光を避け、凍結しないように保管する。

8. 安全管理等

- 1) 作業環境は「労働安全衛生法」等の関係法令を守り、安全な作業を実施する。
- 2) 下地処理に伴う「はつり工事」等の作業を実施する場合は、発生材等の飛散による損傷がないような、特別な注意を払う。
- 3) 工事によって生じた発生残材等は、都道府県条例に従って、適切な処理を行う。
- 4) 材料等が眼に入った場合は、多量の水で洗眼し、速やかに医師の診断を受ける。皮膚に付着して異常がある場合も、同じ処置を行うものとする。

－以上－